

## 平成 30 年度 第 11 回 北区自治協議会 議事概要

**日 時** 平成 31 年 2 月 21 日（木曜）午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分

**会 場** 北地区コミュニティセンター2 階 大ホール

### **出席者 委員**

倉島会長、松田副会長、赤間委員、阿部(康)委員、五十嵐(隆)委員、  
本間(藤)委員、山賀委員、若月委員、渡邊委員、渡邊委員、阿部(淳)委員、  
五十嵐(紀)委員、上松委員、川居委員、川島委員、工藤委員、後藤委員、  
小林委員、曾我委員、高橋委員、真壁委員、村中委員、阿部(美)委員、  
梅津委員、岡委員、本間(久)委員、若尾委員、阿部(恵)委員 計 28 人  
(欠席：内川委員、高口委員)

### **事務局**

#### **[北区役所関係]**

区長、副区長兼地域総務課長（以下「副区長」）、区民生活課長、健康福祉課長、  
産業振興課長、建設課長、北出張所長、北区農業委員会事務局長、  
北下水道分室長、消防局北消防署長、北区教育支援センター所長、  
豊栄地区公民館長、地域総務課長補佐 2 人、地域総務課員 5 人

**傍聴者** 3 人

## **内 容**

### **1 開会**

### **2 議事**

#### **(1) 第 7 期北区自治協議会委員の推薦について**

##### **倉島会長**

はじめに第 7 期北区自治協議会委員の推薦について、第 2 回推薦会議の審議結果について、山賀座長から説明をお願いします。

##### **山賀委員**

議事資料 1、第 7 期北区自治協議会名簿（案）をご覧いただきたいと思います。2 月 7 日に第 2 回推進会議を開催しまして、この名簿（案）の候補者について審議を行いま

した。その結果を報告いたします。

第一に、2号委員構成団体の変更についてです。2号委員の第14番ですが、新潟北ライオンズクラブを、食生活改善推進委員会協議会北支部に変更しようと思っております。新潟北ライオンズクラブの辞退の理由は、会議日程がこの北区自治協議会の開催日と重なるためということでした。一方で食生活改善推進委員会協議会北支部の最近の活躍を鑑みて、構成団体を交代し、支部長の鶴巻ヨシ子さんを推薦したいと考えております。

公募委員の選考についてです。公募委員の覧ですが、今回公募委員については7名の応募がありました。審査は、推薦会議委員10名の内、現在の公募委員と応募者を除く8名で実施をしました。審査方法は作文と活動歴を採点し、上位2名の方を選出いたしました。選出された方は、現委員の本間久文委員と新任の佐久間沙都美さんです。

なお、1号と2号委員については、それぞれの構成団体から推薦された方を確認し、1号から3号までの名簿案のと通りの候補者を、推薦会議で決定しました。

その結果、委員候補者の構成については、男性委員が結果的に16名、女性委員は1名増の14名となり、女性の割合は46.7パーセントとなりました。新潟市は、平成32年までに女性委員の比率は45パーセント以上とすることを目標にしておりますので、この基準をクリアしたわけです。また、第7期委員の平均年齢は第6期と変わらないものの、40代委員が3人から6人に増え、全体の20パーセントを占めています。そのため、年代構成のバランスがよくなりました。

以上、委員候補者は名簿のとおりとなりますので、ご報告いたします。

## 倉島会長

ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問、ご意見がありましたらお受けしたいと思います。

ございませんか。

ないようですので、第7期北区自治協議会の委員候補者については、推薦会議の推薦した名簿のとおりとしてよろしいでしょうか。

— はい の声 —

それでは全会一致ということで、名簿どおりの候補者に確定してよろしいということですね。

— はい の声 —

ありがとうございました。委員候補者からは、委員就任承諾を得た後で、区長から市長へ推薦してもらうことといたします。ありがとうございました。

### 3 報告事項

#### (1) 総合ハザードマップの全戸配布について

次に報告事項（1）総合ハザードマップの全戸配布について、防災課長から報告をお願いします。

#### 防災課長

新潟市総合ハザードマップの全戸配布について、ご説明させていただきます。

近年、全国で災害が多発している状況でございます。東日本大震災の地震や津波は言うに及ばず、昨年も西日本豪雨がございました。新潟市も、災害の救援や復興の支援の手伝いに伺いました。

例えば、岡山県の倉敷市真備町では、洪水で多くの方々が亡くなりました。倉敷市では、ハザードマップは作っており、ハザードマップのとおり被害が起こったにも関わらず、多くの方々が亡くなった状況でございました。

そのような経験を受け、区の協力を得て、新潟市総合ハザードマップを作成しました。地域の危険箇所を把握していただくとともに、迅速で適切な避難ができるよう、洪水、津波などの災害想定を、1冊にまとめた総合ハザードマップを作成し、全世帯に配付するところでございます。

この新潟市総合ハザードマップの特徴ですが、洪水については、河川管理者である国と県から最新の知見に基づき、いわゆる 1000 年に 1 度の規模の災害を想定した浸水想定が出たところでございます。また津波についても、平成 29 年秋に、新潟県が最新の知見により、新たなデータに基づく想定ハザードマップを作成したものがあります。これと併せて、これまで作成された土砂災害、浸水、ため池についての想定をまとめて作成したものです。地域の皆様に分かりやすくなるように、市内 56 中学校区、北区においては 8 中学校区毎に作成し、より具体的にまとめました。

この新潟市総合ハザードマップの全戸配布については、自治会、町内会の皆様からご協力いただき、各ご家庭へ届けていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、続いてハザードマップのサンプルについて、担当から説明します。

## 防災課担当

松浜中学校区の新潟市総合ハザードマップを使って、ご説明させていただきたいと思います。表紙には、対象区と中学校区を記載しております。

2 ページ目までは、洪水と土砂災害の学習ページを掲載し、洪水と土砂災害の特性などを説明しております。洪水、土砂災害についての認識を深めていただく部分になっています。

1 ページの中央左側には、大雨になった場合の河川の氾濫雨量が掲載されています。阿賀野川では、1000年に一度の大雨が降ると、48時間で382ミリメートルの雨量となりますので、その予測をハザードマップに反映させています。

2 ページ目は、状況に応じた避難行動について記載したもので、水平避難と屋内安全確保について記載しています。水平避難とは、避難所に逃げることで、屋内安全確保とは、洪水であれば上の階に、土砂災害であれば山から離れた場所に、家の中で逃げただくとことになります。

次に、3、4 ページ目をご覧ください。自宅や職場など、それぞれの場所でのどの程度浸水するか見ていただく地図になります。松浜小学校の近くに桃色の斜線が引かれている部分がありますが、こちらは、1000年の一度の規模の大雨で川が氾濫した時、家屋倒壊等氾濫想定区域になり、木造家屋が流されるほどの流速が生じる所で、特に注意が必要な区域です。黄色と赤色の範囲は、土砂災害警戒区域と特別警戒区域になります。新潟県が、一定以上の土地の条件をもって警戒区域に指定し、それを反映させております。

地図の下には、洪水時における避難所の評価をしてあります。洪水時、各河川においてどの程度浸水するかを確認し、何階以上ならば避難可能かを判定したものです。例えば松浜小学校は、阿賀野川の河川氾濫時に1階が浸水する想定になっておりますので、2階以上であれば避難可能という評価になります。この洪水ハザードマップを活用し、洪水時にどの避難所に逃げるか、避難方法を複数検討していただきたいと思います。

次のページですが、津波の特性や脅威を確認する内容となっております。津波による4つの地域特徴について、津波がすぐに来る地域や、浸水が長くなる地域、河川を遡上してくる地域などそれぞれの特徴を説明しています。

また6ページには、津波がどれだけ恐ろしいか説明されています。津波は、2波、3波と繰り返しやってきて、その破壊力はすさまじいものです。

次の7、8ページ目をご覧ください。津波によってどの程度浸水するか、色分けして示しています。

次の 9、10 ページに行くと、津波が地震発生からどのくらいの時間で到達するか、色分けして示しています。赤色部分は、発災から 30 分未満ということで、すぐに到達する地域です。次に、黄色、青色の部分という順に津波が到達する順に分けて表示しています。津波避難ビルについても、このページに掲載されています。避難場所の位置などを確認し、津波発生前から適切な避難ができるように、準備をお願いしております。

次の 11、12 ページには、平成 29 年に新潟市下水道部で作成した、浸水ハザードマップを掲載しております。洪水や河川氾濫を伴わず、大雨だけで下水道の処理能力を上回った場合に水が上がりますが、どの程度浸水するかを示すページです。こちらについては作成当時、市の担当部から各地域へ説明があったため、省略させていただきます。

次の 13 ページは、災害発生時の避難行動について書かれています。災害が起こる前の心構えや、発災時における避難の心構え、また避難情報の説明や種類を掲載しています。

次の 14 ページは、新潟市から避難情報が出た時、どのような方法で避難情報を受け取れるかを何種類か掲載しています。その中の「にいがた防災メール」と「緊急告知 FM ラジオ」については、別途チラシを配付させていただきました。「緊急告知 FM ラジオ」について、後に担当から説明をさせていただきます。

最後に、ハザードマップの裏面には、北区の全避難所と災害時の各評価を載せています。細かくて申しわけないのですが、凡例も一番下に載せてありますので、近くの避難所を確認していただきたいと思います。

また、自治会長と町内会長からご協力いただき、各世帯へ全戸配付を行います。3 月 1 日に自治会長、町内会長宅へ配送します。新潟市総合ハザードマップが各世帯に配付され、有効活用できるよう、自治会長や町内会長の皆さまはご協力をお願いします。

## 危機対策課課員

「緊急告知 FM ラジオ」の購入補助制度について、説明させていただきます。

このラジオですが、緊急地震速報や津波警報、それからそのほかの水害などによる避難情報や緊急情報を受信した時、電源を切った状態であっても、ラジオが自動的に起動して、最大音量で緊急情報を発信する機能を持っています。

普段は、常にコンセントに差して使用していただくことができますが、乾電池だけでも使用することができ、停電時や避難先で情報収集をすることが可能となっています。

普通のラジオとしても使用できますが、エフエムラジオ新潟の放送しか受信できませんので、ご了承ください。

このラジオの購入補助制度ですが、この「緊急告知 FM ラジオ」を購入した場合、一定の条件を満たすと、補助金を受け取ることができます。補助対象となるのは、75 歳以上の高齢者のみの世帯、あるいは重度の視覚障害の方がいる世帯となります。補助額は、購入費の 3 分の 2、上限は 6,000 円です。

現在、株式会社コメリ市内 15 店舗で販売をしており、値段は、税込み 1 万 800 円です。このうち 4,800 円が個人負担となります。

なお、この補助制度のご案内の裏面が申請書となっておりますので、この機会に申請書を出される方については、こちらに記載して、市の危機対策課または区役所地域総務課または出張所・連絡所へ、提出をお願いいたします。参考に、補助金の手続きについても一緒に添付いたしましたので、ご確認をお願いいたします。補助事業の説明については以上となります。

#### **倉島会長**

ありがとうございます。ただいま、防災課から報告がございましたが、何か質問がありましたらお受けしたいと思います。

#### **本間（久）委員**

河川の氾濫想定についてですが、一河川毎の予想を重ねた被害予測をしていると思います。西日本豪雨でもそうだったと思いますが、複数の河川が氾濫する可能性もあります。松浜の場合、阿賀野川と新井郷川が両方氾濫した場合の想定をしているのかどうか。その場合、水位はかなり上がると思うのですが、どうでしょうか。

#### **防災課長**

個々の河川毎の想定はしておりますので、重ね合わせて一番高くなる河川の水位を、このハザードマップに挙げております。しかし、複数の河川が同時に破堤した場合の水量を足し込んだ形での浸水想定設定はしておりません。あくまでも個々の河川毎に浸水想定を出して、一番高くなる水位です。

#### **本間（久）委員**

西日本豪雨だと、二河川のうち大きな方の河川の水かさが増えて、もう 1 つの河川に逆流しており、そういう可能性もあるわけです。片方だけ氾濫して、片方は氾濫しないということはあり得ないと思うのです。そういうことを考えておかないと、特に松浜地

区の方はかなり心配されると思います。考えておくべきではないでしょうか。

#### **防災課長**

趣旨は了解いたしました。ただ、科学的な知見として、各河川の増水量を足し込むような設定がされておられませんので、今後、いただいたご意見を河川管理者などに要望したいと考えております。

#### **本間（久）委員**

もう一つ、この総合ハザードマップは中学校区毎に作られていますが、例えば、友達がほかの学校区にいるとか、ほかの区にいる場合もあります。あるいは、高齢の親戚が1人で住んでいる場合もある。そういうことを考えると、例えば区全体とか新潟市全体が見られる総合ハザードマップも必要ではないでしょうか。

#### **防災課長**

ホームページ上は、すべての区の総合ハザードマップを見ることができます。それから、各区においても、ほかの区の総合ハザードマップも、一応用意することとしております。各区や市の防災課に連絡いただければ、地元の中学校区以外の総合ハザードマップも用意させていただきます。

#### **本間（久）委員**

例えば、北区全体を一度に見ることができるようになっていれば、わざわざパソコンを立ち上げてダウンロードすることをしなくても済むわけです。そういうことも踏まえて、追加で出すことも考えたほうがいいと思います。

#### **防災課長**

分かりました。今後、ご趣旨のことを踏まえて作成を検討していきたいと思います。紙として発行するのは難しいと思いますが、ホームページなどで見られるような形にしたいと思います。

#### **本間（久）委員**

よろしく申し上げます。

## 若尾委員

二つほど質問があります。

一つ目ですが、指定避難場所のそれぞれの許容人数の記載がないようですが、知ることとはできますか。

## 防災課長

このハザードマップの冊子上には出ていないのですが、新潟市の地域防災計画を作っており、その中で各避難所の受入可能人数を示してあります。こちらも、新潟市のホームページで、新潟市地域防災計画（資料編）で一覧を見ることができます。

## 若尾委員

この会議にお集まりの皆さまは地域の代表で、自分たちの地域では、どこに何人くらい逃げられるのかという視点でも総合ハザードマップを見ていると思います。ですから、一般の方に配付するのはこれでいいと思いますけれども、やはり地域を代表する方々には、プラスアルファの情報も併せて提供すべきではないかと思います。

## 防災課長

ご趣旨のことを踏まえ、避難所運営体制連絡協議会も開催しておりますので、そこでお集まりになった地域の役員の方には、併せて説明したいと思います。

## 若尾委員

ぜひ有効な活用をお願いしたいと思います。

また二つ目ですが、このハザードマップを見ると新庁舎の建設場所については、0.5から3メートルの洪水ハザードがあるとの記載がございます。設計中の新庁舎への影響については、どのようにお考えでしょうか。

## 副区長

新庁舎ができるのは、北区文化会館の隣ですが、あそこは標高1メートル程度です。そこに、1メートル程度土盛りをしまして、その高くしたところに新庁舎を建てることになっております。北区文化会館も少し高くして建てられていますが、同程度まで高くして、新庁舎を建設することになります。

ただ、もし最大3メートルの浸水があるとする、1階部分は少し浸水してしまう懸



念があります。

### 若尾委員

それは、設計計画上織り込み済みということで、進められているのでしょうか。確かに、想定でしかないものではありますが、3メートルの浸水があれば、基本的に1階は水没します。そういったことを想定した建築設計が進んでいるのでしょうか。

### 副区長

1000年に1度の最大浸水深を踏まえての建設計画になりますが、浸水に備え、どこまで高くすればいいのかという問題もあります。現在の建築計画上は、先ほど申し上げた通り、約1メートルの土盛りをした上で建てる計画でございます。最新の浸水想定も承知しているところですが、そのような計画です。

### 若尾委員

もし、今から間に合うものであれば、ぜひ対策の検討をお願いします。

### 赤間委員

素晴らしいものを作ってください、深く感謝申し上げます。

私は、コミュニティ協議会の関係者ですが、これを地域の家庭に全部配付するわけですね。私の地域だけでも、班長は50人近くいますので、相当な人力をかけて配達するわけです。

そういうこともあり、ただ配付しただけではいけないのではないかと思います。回覧板もそうですが、各軒に配っても見ていないことが多くあります。しかしハザードマップは、命にかかわることですからぜひ見てもらいたい。「仏作って魂入れず」ではよくないので、ラジオやテレビを使ってPRしてもらえると良いと思います。3月半ばか4月に入ってからもいいので、公共放送を使って説明してもらえないでしょうか。それができれば、私は最高だと思うのです。そのくらいの気力でやっていただければ、一人一人に伝わる情報も多いのではないかと思います。金銭の問題ではないと思いますので、検討してください。

### 副区長

本日は、まず自治協議会の皆さまにご説明をさせていただきました。この後のスケジ

ジュールですけれども、4月になりましたら、各コミュニティ協議会の総会が開催されます。その際に、北区の防災担当がお邪魔してご説明したいと考えております。

そのほかにも、各自治会などの集まりがあるので、その際に勉強したので来てほしいと地域総務課にお電話いただければ、出向いて十分ご説明させていただきたいと思えます。個別にご連絡いただければ対応いたしますので、よろしく願いいたします。

## 防災課長

総合ハザードマップが作成した時に、市長が記者会見で発表したことはニュースになっています。市報による広報もしていきたいと思えます。

このマップは、できる限り地域の防災訓練や啓発の場に使っていただきたいと思えます。また、市の主催する講座などに参画していきたいと考えております。

## 山賀委員

まず、質問です。

1 ページ目のシミュレーション設定条件、降雨規模についてですが、大河川は 1000 年に 1 度、そのほかは 70 年から 150 年に 1 度の規模というものがあります。私の経験では、1000 年に 1 度ということは、昔はあまり言われなかったもので、その辺はどうして決めたのか、分かったら教えていただきたいです。

次に、感想です。水害のシナリオの中で、1 ページ目に洪水について書いてあり、一番上には、洪水が発生すると堤防が壊れ、たとえ堤防が壊れなかったとしても、水が超えれば洪水になるという絵があります。

ただ、洪水の被害というのは、川からくる水だけではなく、内水が吐けずに溜って、上がってくる量も相当多いのです。特に葛塚地区がそうですが、阿賀野川の堤防は別として、いわゆる内水氾濫については、このマップにあまり書かれていないようです。

次のページですが、水平避難と安全確保について書かれています。水平避難については、内水被害と非常に関連性が高いわけです。その危険性についての表現が少し弱いのではないかというのが、私の感想です。

それからもう 1 点、先ほど話したように計画規模では 70 年から 150 年に 1 度の水害に備える基準だということですが、平成 10 年の時の大雨では、内水が氾濫し、その後下水道などが整備されました。これらの関連が分かりにくいため、注意して説明していただくのが大事だと思います。

## 防災課長

専門的な観点から、ご指摘いただいたところでございます。

洪水の想定規模と、浸水の規模は少し違います。シミュレーション設定条件については、桃色の部分が L2 で、いわゆる 1000 年の 1 度の規模、また緑色は L1 と言われる 70 年から 150 年に 1 度の降雨規模を掲載したものです。元来、70 年から 150 年に 1 度の降雨規模で想定していましたが、最近、大雨やゲリラ豪雨が発生し、対応が間に合わないが増えてきました。そこで新たな知見として、1000 年に 1 度の降雨規模で浸水想定を出しています。平成 28 年度から、国や県から示された最新データに基づいております。

しかし、全てが 1000 年に 1 度の降雨規模に対応しているかというと、そうではありません。70 年から 150 年に 1 度の降雨規模の予測値しかないものがございます。それらを合わせた形で、今回、洪水の総合ハザードマップを作っています。

一方、浸水については、平成 10 年 8 月 4 日の大雨による被害がありました。この時、排水施設等がまだ弱かったせいもあり、かなり被害が出ました。災害種別毎に想定され、規模の違いはあるものの、このような災害が起こった場合は、どこまで浸水するか。あるいは、最大規模の洪水が起こった場合はどうなるのかという所を、身近な視点で知ってもらうために掲載しております。

## 山賀委員

結局、住民の方は 100 年に 1 回とか、200 年に 1 回とか言われても分からないのです。あの時の雨量だったらこうとか、分かりやすく言わないと誤解が生じる気がします。過度に安心し過ぎても、困りますし。

## 防災課長

1000 年に 1 度の規模と言われるピンクの部分は、西日本豪雨、岡山の災害程度の相当の大雨ということで、浸水については、平成 10 年 8 月に新潟市で起こった程度の降雨を基準としていると、ざっくり言えるのではないかと思います。今後は、分かりやすさも配慮しながらご説明させていただきます。ありがとうございました。

## 小林委員

このように素晴らしい資料ができたことは、非常によいと思います。この総合ハザードマップは、市内全戸配付するというので、既に住んでいる方に配付することになる

と思うのですが、新たにこの地域に入ってくる人たちに対しては、どのように配付をするのか、お伺いできればと思います。

#### **防災課員**

配付いたします。今、調整中ですが、移住してこられた方は区民生活課でいろいろ手続き等を行いますので、そこから地域総務課にご案内させていただき、この総合ハザードマップを配付する体制を取りたいと考えているところです。既に決まった区もあるのですが、北区については、まだ方針が固まっておりませんので、今後、配付する方向で進めてまいりたいと思います。

#### **小林委員**

土砂災害警戒区域については、不動産売買や貸借の際に説明で説明義務があるということで、不動産売買によって転入する方は、説明を受けると思うのですが、贈与や相続によって新たに転入する人にとっては、そういった情報が得られない可能性があります。住民票の移動などのタイミングで配付できるとよりよいと思います。

#### **防災課員**

ありがとうございました。今後、前向きに検討していきます。

#### **阿部（美）委員**

今のことで関連して、ご質問してもよろしいでしょうか。先ほど、区民生活課に転入届けを出した時に、地域総務課に案内をするようなコメントがあったのですが、北区では1階から3階まで上がらないといけません。そうではなく、窓口で一括管理をしてそこで配付できたほうがよいのではないかと思います。

#### **防災課員**

ご意見ありがとうございます。中学校区別に分かれていますのですが、何とか対応できるよう検討していきたいと思います。

#### **倉島会長**

ほかにごいませんか。

私からお聞きしたいのですけれども、いわゆる災害種別の洪水土砂災害について、

1000年に1度という想定は、どういうところから出てきているのですか。詳しいデータを基にしているのか、あるいは当たるも八卦当たらぬも八卦というような状況の中でこういう言葉が出てくるのか、少し理解できないのです。

### 防災課員

鬼怒川の破堤が平成27年にありました。それまで70年から150年に1度程度の被害を想定していたのですが、それを上回る被害が生じました。そこで今回、1000年に1度の計算をして、人命だけは最低限守る方針で水防法が改訂されました。それを基に、河川管理者である国や県が計算シミュレーションを行って、1000年に1度くらいの頻度でこの程度の降雨が想定されるという計算結果を出したところです。

### 倉島会長

分かりました。科学的かつ物理的なデータに基づくということですね。ありがとうございました。

ほかにございませんか。

### 村中委員

このハザードマップは、もう完成品なのですよね。

### 防災課員

完成品です。

### 村中委員

いろいろイラストが入っていて、見やすいと思うのですが、一部の文字がすごく細かくて見にくいというところがあります。でも完成品でしたら、仕方ないですね。

### 防災課員

すみません。掲載ページに限りがございます、見づらくなっているのですが、一応、国の手引きには沿って作っております。見づらいところは、申し訳ありません。

### 倉島会長

ほかにございませんか。

ないようですので、次に移りたいと思います。

## **(5) 部会の会議概要について**

### **倉島会長**

(2) 部会の会議概要について、各部会長から報告をお願いいたします。地域づくり部会長からお願いします。

### **本間（久）委員**

地域づくり部会から報告いたします。先月ですけれども、一応報告として、ノーザンミュージック フェスティバル 2018 の決算の報告と概要がでています。まだ、この段階では監査が終わっていない状態ですけれども、一応1月30日で、会計報告はされています。当日の台風の接近でいろいろな形で外部イベントが中止になった関係で、予算的には少し余った形になっています。

それから地域防災力向上事業では、12月の防災士養成講座を7名受講して、全員合格しました。これで一応、各地域に最低1名の防災士が誕生した形になります。

また、AEDについて、どこにあるのか非常に分かりにくいので、設置場所の周知徹底も必要ではないかという意見がでてきて、今後検討していくという形になっています。

### **倉島会長**

ありがとうございました。次に、福祉教育部会からお願いいたします。

### **渡邊委員**

皆さんのお手元にあるとおりですが、「区民の一体感醸成プロジェクト」につきましては、12月から3月まで行うもので、先般は新潟日報でも紹介されてございました。いろいろな分野の参加者や、委員の皆さんからも積極的にご意見をいただき、それをレイアウトしたものについて話しています。予算的な制限もあると思いますが、できるだけ反映できるように、作業しております。

部会では、12月26日に開催されたワークショップの報告を、事務局からいただきました。いろいろな意見が出ているのですが、ここに記載したとおりでございます。後ほど、お読みいただければありがたいと思います。

## 倉島会長

ありがとうございました。

続きまして、自然文化部会からお願いいたします。

## 若尾委員

自然文化部会からの報告です。先月は、まず、今年度の福島潟の魅力発信事業として、ポスターとパネルについての打ち合わせを行いました。環境政策課の担当者が案を作ってくれ、その案についての意見を交換いたしました。その内容を反映した修正案について、また、今日の部会で引き続き検討を進めてまいりたいと思います。

それから、次年度の委員提案事業の中での意見がいろいろ出ておりましたが、記載のとおりでございます。

## 倉島会長

ありがとうございました。ただいま、各部会長からの報告につきましてご質問、ご意見がございましたら、お受けいたします。

ございませんか。

ないようですので、次に移ります。

## 4 その他

次に、その他でございますが、小林委員からお願いいたします。

## 小林委員

私は、この北区自治協議会に、北新潟商工振興会からの選出で参加させていただいておりますが、同時に、一般社団法人新潟青年会議所にも所属しております。2019年度は、新潟の協働開発委員会の委員長もさせていただいております。協働というのは、自治協の位置付けと同じように協力しながら働くという意味の協働です。その中で、新潟青年会議所と新潟のために頑張っている外部団体とを掛け合わせることによって、それぞれの成果や活動が加速するような協働の形を開発することが私たちの担いとなり、今回は、新潟青年会議所と新潟市、津南町、新潟県と協働しながら、それぞれの地域を盛り上げる活動を2019年度に行います。4月22日に、津南町町長と新潟県の総務管理部長をお呼びして、「関係人口」をキーワードにしたフォーラムを開催いたします。

「関係人口」は、聞き馴染みのない言葉だと思いますが、このチラシの左下にも書いてございます。移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域や地域の人々と多様にかかわる方という概念です。地域外の人が、離れた地域の地域活動をするというのが関係人口の発端となります。この言葉ができたのは、中越沖地震があったところで、一つの地域がなくなるかもしれない時に、地域外の人が助け合ってその地域を盛り上げたという事例が発端と聞いています。一方で、人口減少はもう歯止めがかからないと考えておりますが、それをどのように緩やかにソフトラディングさせるか、その工夫の一つとして、関係人口がキーワードとなり、地域の盛り上がりにつながるのではないかと考えています。大学や行政の方にもご案内しており、地域にかかわる皆様にとって何か参考になることもあると思いますので、ご参加いただければと思います。

私は、本年度で自治協議会委員を終わりますが、今後も、地域に関わりを持ちながら進めていきたいと思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。

#### **倉島会長**

ありがとうございました。ほかに委員の皆様から何かご意見があれば、ございませんか。

ないようですので、以上で予定された議題及び連絡事項は終わります。